

リベリア ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2016年10月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約



今期、ついに、Gbapaye コミュニティ、そして Yolowee コミュニティとの保全契約が締結されました！9 月には、地元政府、有力者、コミュニティの多くの方々の出席の中で、式典が開催されました。地元政府からのスピーチでは、違法行為を食い止めるメカニズム、そしてその実施のための支援の必要性が繰り返され、保全契約への期待の高さが示されました。保全契約は、12 ヶ月を期限とし、再交渉と更新を繰り返すこととなります。

前回の報告でもご紹介した通り、2つのコミュニティは、保全契約で受け取る便益として、保全を仕事にするフロントライン保護官の雇用と家畜飼育の支援を決めました。今期、保全契約の下、各コミュニティから12人、合計24人の元猟師がフロントライン保護官として雇用され、森林開発局による調整・監督の下、東ニンバ自然保護区とその周辺のパトロールを開始しました。フロントライン保護官の役割は、1) 東ニンバ保護区の周囲の森で違法行為がないよう見回り、生物多様性に関する情報を収集し、2) 人間と野生動物の間のコンフリクトの解決をサポートし、3) コミュニティを対象に、保全と持続可能な自然管理についての普及啓発をすることです。それに対して、毎月の給料とパトロール用品の支給を受けます。

10月後半には、フロントライン保護官を対象としてトレーニングを行なう予定です。また、美しい自然と景観を誇る東ニンバ保護区には、海外からの旅行者も訪れます。フロントライン保護官は、ツアーに同行し、彼らの安全を守る役割を果たせる可能性もあります。



Yolowee 村長が保全契約に署名



政府関係者が保全契約に署名

Yolowee コミュニティの紹介

Yolowee の歴史は 18 世紀にさかのぼります。奴隷貿易が盛んだった当時に Gaya という男性が村を作ったため、元々は、「Gaya の町」を意味する Gayepa という名前でした。Yolowee は、「Yolo の木の下」という意味です。Yolowee は、東ニンバ保護区に隣接し、2003 年の東ニンバ保護区の設立に影響を受けた 18 のコミュニティの一つで、26 家族、433 人が暮らしています。Yolowee の人々は、民族的には、Mono と Gio という二つの部族に由来しますが、互いを尊重した生活を送っています。生活のため、移動式焼畑農業、マット編み、漁業、狩猟、林産物の採集、木材の切り出しを行なっています。東ニンバ保護区周辺の他のコミュニティ同様、Yolowee の村人も、森をご先祖から受け継いだものと信じ、彼らの生活が森と共にあると考えています。



保全に関する会合に出席する Yolowee の創設者 Gaya の子孫でもある Yolowee 村長と村人



村で唯一の小学校

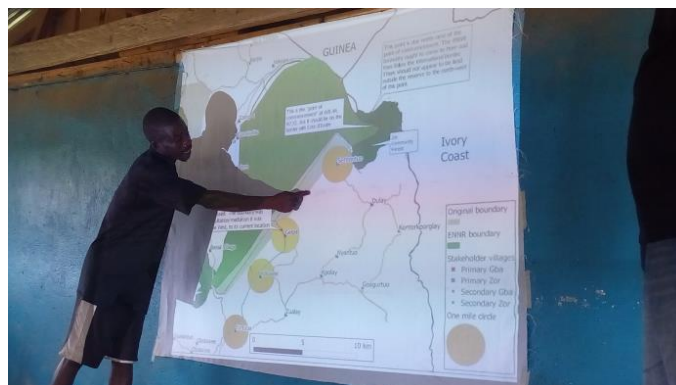
森は、さまざまな野生生物の生息地であると同時に、Yolowee の人々にとって、文化的・伝統的な習わしを執り行うための神聖な場所でもあります。森林は、また、食料を提供し、水を供給し、土壌を流出から守ります。森に生息する動物は、人々にとってのタンパク源で

あり、現金収入源です。絶滅危惧種や保護対象種が狩猟されたという報告はまだありませんが、保護区周辺での罾や銃の利用は、それらの種にとっても脅威です。

保全契約を通じて保全を強化する Yolowee の人々ですが、実は、これまでも保全を行なっていました。村には、伝統的な組織と伝統的な学校があり、その組織と学校のための森では、農業・漁業・狩猟などが禁止されているのです。伝統的な学校は、男の子のための学校と女の子のための学校があり、文化や村のルール、ルールを破った人に対する罰則などについて教えられます。地元では、伝統的な罰則が非常に重要視されているのです。タブーやトーテムといった伝統的なシステムが機能しており、村ごとに異なっているものもあれば、この地域で共通するものもあります。

慣行法や行政法に基づいた自治体制もあります。Yolowee の創設者の子孫でもある、Yolowee の村長は、長老や地区長と相談しながら、村の問題全体を見ています。村には、男女のメンバーからなる「長老たちの評議会」もあり、村の中のさまざまな対立の解決を行っています。非常に重要な決定は、「聖なる森」で話し合われます。

保全の取り組みを効果的に実施するためには、地元の社会システムとの連携が重要です。



東ニンバ保護区の境界線とその周辺の村々について村人と話し合う地元の若者

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。